

【氏名】ダニシマズ イディリス

【所属大学院】（助成決定時）京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

【研究題目】

神秘主義哲学と宗教実践の倫理学 — ブルセヴィーの思想における存在一性論の展開

【研究の目的】

本研究の目的は、トルコの著名なスーフィー（イスラーム神秘主義者）、ブルセヴィー（1725 年没）の思想に見られる「存在一性論」に対する解釈を明らかにすることである。「存在一性論」とは、イブン・アラビーによって 13 世紀に創唱された思想であり、後にイスラーム世界全域において学派として発展した。基礎的な主張は神と万物を同一視することとされるが、様々な解釈がある。神と万物との本質的な同等性や相違性をめぐって、スーフィーたちと法学者や神学者などのイスラーム学者の間で物議がかもされている。現在も、同問題に関する賛否両論が、両側の思想家の間で交わされている。ブルセヴィーは、イスラーム学者であり、スーフィーである。彼は両者の立場に立ち、日常的な習慣を通して同論を解釈し、スーフィーと非スーフィーの対立の和解のみならず、本来エリートたちの中で受け継がれてきた同思想を大衆に広めようと試みた。それ故、ブルセヴィーの思想研究は思想的・社会的な意義を持つ。

【研究の内容・方法】

ブルセヴィーは、「存在一性論」に関する解釈を行う著作の中で、神と万物の関係を新たな角度から解釈している。この点が、彼の特徴であるといえる。本研究では、ブルセヴィーによるこの解釈を「倫理的・宗教実践学的な解釈」と呼ぶ。

「倫理的・宗教実践学的な解釈」は、二つの部分から構成されている。倫理的な解釈とは、万物を善悪の両面から論じる一般的な倫理学の解釈ではない。それはイスラーム倫理学（akhlāq）の範疇に入るイスラーム的な生き方、さらにイスラーム地域における宗教に基盤を持つ習慣や風習に基づく解釈を意味する。またそれは従来のスーフィー思想を哲学的な観点から解釈する捉え方、あるいはクルアーン（イスラームの聖典）とハディース（預言者ムハンマドの言行）の章句を根拠とするイスラーム学者の捉え方でもない新たな解釈方法である。例えば、ブルセヴィーは、当時の人々が用いた書面の挨拶の慣用表現を通じて、「存在一性論」の解釈を行っている。

宗教実践学的な解釈とは、スーフィー思想をイスラームの宗教生活に適用の試みを含んだ解釈である。しかしそれは、クルアーンとハディースにおける宗教生活に関わる章句のイスラーム法学者の解釈と異なる。ブルセヴィーは、「存在一性論」を宗教生活に結び付けて説明する。すなわち、本研究で宗教実践学的な解釈と呼ばれているのは、スーフィーが精神的な体験後に得た真理を、宗教生活においても適用していることである。具体的に、

ブルセヴィーは、クルアーンの章句を解釈する時に、ムスリム（イスラーム教徒）の宗教生活に関わる質問を答える時に、自分の思想を適応している。

【結論・考察】

本研究によって、ブルセヴィーの思想には二つの特徴があることが明らかとなった。それは思想史上、彼が属した「存在一性論」の学派に対する、彼の重要な貢献としてみなすことができる。

その貢献とは第一に、ブルセヴィーがスーフィー思想を一般民衆の日常会話と習慣を通じて解釈している点である。すなわち彼は、何が良く、何が悪いという問で決められている日常的な習慣を通じて、高度なスーフィー思想を説明している。それは、本研究で倫理的な解釈と呼ばれているものである。

第二に、スーフィー思想の宗教生活への応用に関わるものである。ブルセヴィーは、「存在一性論」を宗教生活に結び付けて説明すると同時に、スーフィー教団長として弟子を指導するなかでも用い、さらに神学や道德のような様々な分野に応用している。すなわち、高度な思想であるスーフィー思想が、彼によって宗教の実践の分野に適用されたのである。